

令和6年度 学校評価報告書（総括書）

あま市立篠田小学校

1 総括

(1) 教育目標(学校経営案より)

「あま市教育立市プラン」に基づき、知・徳・体の調和のとれた人間形成を目指して、「自ら学び、豊かな人間性とたくましく生きぬく力を備えた児童」の育成を図る。

(2) 本年度の重点努力目標

ア 豊かな心の育成

- ・ 学級経営〔縦糸（指導者と児童をつなぐ）、横糸（児童と児童をつなぐ）を紡ぐ〕のより確かな充実を図る。
- ・ 教職員が、児童をよく観て、よく感じ、当たり前のことを当たり前に行う大切さと、有り難いことをありがたいと感じる心を育み、自己肯定感や自己有用感、自尊感情を一人一人が味わえるよう導く。
- ・ 「スマイルトーク」や、朝の読書、異年齢集団（青空活動）による活動、総合的な学習の時間や福祉教育・道徳教育等を通して、他者を思いやることのできる豊かな心と社会性を育てる。
- ・ 互いに安心して関わるために、あいさつや返事、言葉遣いなど基本的生活習慣を身に付ける。
- ・ 命を尊び（モルモットの飼育活動）、命を守り（交通安全・防犯・防災）、命を育む（野菜等の栽培）ことを通して、自他ともに健康で安全な生活しようとする意識を高める。
- ・ 特別に支援を要する児童に対しての指導・支援体制の整備とその活用を学校全体で進める。
- ・ 児童会活動の活性化により、異学年交流を通じて、自分の役割を果たし、他者に貢献する喜びを育む。
- ・ 行事や諸活動のねらいや意義を明確にし、効果的、効率的に準備し、達成感を味わえるようにする。

イ 学習指導の充実

- ・ 指導者の授業力の向上。学習者の立場になった、具体的な指導・支援の手立ての研究。
- ・ 現行学習指導要領の理解を深め、適切に評価し、学習活動に反映させる。
- ・ より効果的にICT機器を活用するようにする。
- ・ 校長・教頭および中堅・若手の「研修の充実」を図る。
- ・ 学年内での協力体制の強化（教科分担、生徒指導協働）。

ウ 家庭や地域との連携

- ・ 『誠意はスピード』『教育は今日行く』日々の保護者との報連相・確や、自己点検や学校評価により、保護者・地域からの意見を聞きながら、信頼され開かれた学校づくりに努める。
- ・ PTA組織を活用し、保護者や地域との協働体制を有効に機能させる。
- ・ 市教委や教育相談センター、子ども健康部（子ども福祉課）、SCとの連携強化により、不登校児童の減少と、その子が「家庭以外の誰かと繋がる」ことにより、豊かで充実した毎日を過ごせるようにする。（不登校・不適應コーディネーターの設置）
- ・ コミュニティスクールを活用し、地域とより多く関わられるような場面を設定する。学校の様子は、ホームページ等で情報の公開に努める。
- ・ 義務教育9年間で児童を育てる視点を持ち、幼保小中連携教育を推進する。

エ 多忙化解消に向けて

- ・ ねらいと効果を明確にした業務内容の精選・改善や、校務分掌の見直しを随時行い、チームによる対応力の強化を図る。
- ・ 温かな言葉遣いを意識して声をかけあい、小グループでの会議を有効に活用し、組織力の向上を図る。
- ・ PDCAサイクルを有効に活用し、目的的な努力をする気風を高めるようにする。
- ・ 常に、より少ない時間で、より大きな効果を上げるのはどうしたらよいかということを考えながら、仕事に取り組む。
- ・ 過去の資料（型）を参考にし、何を教えるかよりも、どう教えるかという工夫に重点をおけるようにする
- ・ 在校時間の適正な管理、勤務の割り振り、一斉退校日の設定等により、健康維持に努める。

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和6年12月9日（月）～12月16日（月）

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

・ 児童 346名／全360名
・ 保護者 285名／全360名

・ 教職員 21名／全21名
計652名／全741名

3 調査結果【資料として添付】

別紙アンケート結果参照

4 考 察【児童・生徒、保護者、教職員、地域等の総括的考察】

- (1) 全体を通して、ほとんどの項目で児童・保護者・教職員とも「とてもそう思う」「少しそう思う」という肯定的な回答を80%以上得ることができた。
- (2) 児童においては、「自分の考えや気持ちを先生や友だちに伝えている」「スマイルトークで学んだことを生活にいかしている」「困ったとき、相談できる人がいる」「毎日学校に行くのが、楽しみである」「学校であったことを家で話している」の5項目で肯定的な回答が80%に届かなかった。人との関わりに関することについて、評価が低いことが分かった。
- (3) スリンプルプログラム「スマイルトーク」をスタートして2年目となる。この取り組みについて、保護者から90%以上の評価をいただけたが、児童の「スマイルトークで学んだことを生活にいかしている」の項目では73%、教職員の「スマイルトークのスキルを活用するようにしている」の項目では81%となっており、保護者からの高い評価に反して、活用できるところまでは到達していないことが分かった。一方で、曾山和彦氏が来校し、ご指導をいただいた折に、絶賛される学級も現れてきている。
- (4) 保護者においては、「学校は、各種たよりやホームページでの分かりやすく情報発信をしている」の項目の肯定的回答が、年々上がってきている。逆に、「学校は、いじめ防止や発見に努めている」という項目の肯定的回答は、年々下がってきている。どちらの項目も教職員は意識して取り組んできたが、保護者の評価は分かれる結果となった。
- (5) 教職員においては、授業力の向上、児童理解の努力、保護者への丁寧な対応など、ほぼ100%の教職員が努力していると答えていた。その中でも、大きく数値が伸びた項目は、「タブレットなどICTを効果的に活用している」である。活用方法を個人で調べたり、教師間で教え合ったりして、一人一人ができることを増やし、積極的に活用した結果であると考ええる。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 保護者の「学校は、各種たよりやホームページでわかりやすく情報発信をしている」の項目が、年々上がってきている。学校の様子を伝えるため、こまめに記事をホームページにアップすることに努めたことと、様々な部分でDX化（デジタル化）を進めたことで、伝えたいことが、確実に速く伝えられたことが評価につながっていると考える。
- (2) 教職員においては、学習面で「わかる授業」「めあてとふりかえりを明確にした授業」「基礎・基本の定着」など昨年度以上に意識して取り組むことができた。子どもたちには「授業がわかりやすい」（約88%）、保護者には「学校は、学習の基礎・基本の定着に努めている」（94%）と評価された。

また、日頃から保護者への丁寧な対応に心がけていることも、保護者にしっかりと伝わっているのを感じた。（教職員96%、保護者94%）

《課題》

- (1) 「先生や友だちの話をしっかりと聞いている」という項目には、約92%の児童ができていますと答えているのに対して、「自分の考えや気持ちを先生や友だちに伝えている」という項目には、できていると答えた児童が約72%であった。子どもたちが、自信をもって自分の内面を表出できるよう、自己肯定感を高めるとともにお互いを認め合うあたたかな集団づくりにさらに努力する必要があると考える。
- (2) 昨年度に引き続き「いじめ防止や問題の早期発見・早期解決」の項目で、78%の保護者が肯定的な回答だが、反面約20%の保護者が否定的な回答をしている。教職員の意識は高く、100%が肯定的な回答をしている。この差を受け止め、今以上に教職員が問題意識をもち、アンテナを高くして日々過ごしていくことが重要である。

6 改善策

- (1) 子どもたちの自己肯定感を高めるとともにお互いを認め合うあたたかな集団づくりを進めるために、スリンプルプログラム「スマイルトーク」を繰り返し行い、心豊かな土壌づくりを根気強く行っていく。児童も教職員もともに傾聴姿勢を大切にして、話しやすい場づくりに努めたり、話すことに

慣れたり、認められる経験を積んだりしていく。

- (2) 「いじめ防止や問題の早期発見・早期解決」に対しては、速やかな事実確認、また、教職員の協働体制による丁寧かつ迅速な動きが重要である。気になることがあれば、情報をこまめに教職員全体で共有して、篠田小の子どもたち全員を、篠田小の教職員全員で育てていく体制を今以上に確立していく。また、保護者との連絡を密にし、家庭と学校が双方ともに児童の成長に尽力する関係性を構築していく。